

宮坂建設工業札幌支店

「安全第一」250人誓う

協力会社ら参加し防災推進会議

宮坂建設工業(株)札幌支店(宇佐美恭広支店長)は十日、札幌サンプラザで二十三年度防災推進会議を開き、工事に携わる一人ひとりの安全意識高揚を図った。

同社は「安全は事前に危険の芽を摘み、事故・災害を未然に防ぐ」ことが大切との考えから、安全大会を「防災推進会議」に改称し、帯広本社で平成十年から実施している。札幌支店では従来「安全研修会」を開催してきたが、協力会社数が増加したため昨年度から防災推進会議に切り替えた。本支店役員や協力会社から約二百五十人が参加。冒頭、東日本大震災の犠牲者の冥福を祈って黙とうを捧げた。

あいさつした宮坂寿文社長(写真)は、創業九十年、札幌支店開設七十年の節目の年に当たり「本日を



起点に、安全について見直しを求めたい」と要望。「事故を起こすと会社の存亡にかかわると言う方がいるが、それは間違い。何より大切なのは人の体、人命を守ることであり、当社では作業員に一切けがをさせない

い、重大災害を起こさない方針でやっていきたい」と述べ、「安全第一」で取り組み考えを強調した。また、コンプライアンスの徹底にも言及し、「(仕事

で)不満や問題点があれば、品質向上にもつながることなので、きたんのない意見を担当者に言ってもらいたい」と協力会社の協力を求めた。

会議では、札幌中央労基署・石川俊英署長、札幌北警察署・宗形昭敏交通課長や、札幌市北消防署の担当

者の講話を聞いたあと、同社の村井和代安全環境対策室長がリスクアセスメントなどの労働安全衛生方針を

説明し、全員で安全第一の基本を再確認した。

北海道建設新聞

2011年(平成23年)5月12日(木曜日)

安全と人命考え現場の運営を

宮坂建設工業も

宮坂建設工業(本社・帯広)は10日、札幌サンプラザで札幌支店防災推進会議を開いた。協力会社を含め約240人が参加

し、安全を最優先に業務を進めることを申し合わせた。

宮坂寿文社長は「安全、人命を第一に考え、けが人を出さないという強い意志を持って現場運営に当たると協力をお願いしたい」と要請し写真。続いて、石川俊英札幌



中央労基署長が防災発生状況などを説明。建設業労災の大部分を占める3大災害と交通事故の防止徹底、熱中症への注意、メンタルヘルス対策の充実などを呼び掛けた。宗形昭敏札幌北警察署交通課長は交通事故防止、花園一正札幌市北消防署予防課防火推進係長は地域防災をテーマに講演。同社の村井和代安全環境対策室長が労働安全衛生方針を説明した。